

平成20年漁業種類別主要魚種の水揚状況

	平年に比べて好漁 (120%以上)				平年並み (80 ~ 120%)				平年に比べて不漁 (80%以下)			
	魚種	漁獲量	平年比	前年比	魚種	漁獲量	平年比	前年比	魚種	漁獲量	平年比	前年比
旋網	サバ	5,969 t	206%	155%					アジ	2,348 t	61%	83%
	イナダ	941 t	152%	99%					イワシ	2 t	5%	3%
定置網									ブリ	208.1 t	51%	26%
	サバ	323t	236%	125%	アジ	713t	101%	61%	イワシ	12t	58%	25%
	マグロ	116t	147%	438%	イナダ	268t	111%	74%	サケ	154t	59%	61%
	メジマグロ	58t	141%	113%	ブリ	416t	83%	291%	サクラマス	4t	65%	111%
	シイラ	119t	313%	118%	ヤリイカ	34t	107%	67%	スルメイカ(生)	115t	29%	67%
	ヒラメ	13t	165%	144%	マダイ	35t	105%	76%				
板曳網	ヒラメ	153t	138%	100%	マガレイ	120t	97%	75%	タコ類	56t	72%	71%
	ムシガレイ	61t	141%	115%	ヤナギムシガレイ	116t	111%	87%				
					マコガレイ	22t	86%	80%				
					その他カレイ	57t	90%	84%				
底曳網	ホッコクアカエビ	337t	137%	118%	ニギス	600t	102%	108%	ハタハタ	133t	35%	56%
	ヒラメ	21t	126%	107%	マダラ	279t	113%	58%	スケトウダラ	97t	57%	72%
	ムシガレイ	23t	194%	164%	ヤリイカ	50t	81%	85%	ホッケ	88t	22%	40%
					アカガレイ	53t	82%	111%	タコ類	37t	61%	55%
					マガレイ	33t	100%	61%				
イカ釣								スルメイカ(生)	1,935 t	54.5%	116%	

平年 過去5年間の平均水揚量

平成20年漁況の主な特徴

【浮魚類】

・まき網ではサバ、イナダが好調でした。
 ・定置網ではサバ、マグロ類、シイラ、ヒラメが好漁でした。
 ・マグロは30～40kg台が中心、メジマグロは10kg台が中心でした。
 ・ブリ類は主要港の水揚げでは平年並みであるものの、イナダ、小ブリ、中ブリは栗島定置等の漁獲が好調で、県全体では平年を上回る漁獲となっています。
 ・スルメイカ釣(生 主要港1～12月)は、1,935トンで前年は上回ったものの、平均比54.5%と前年に引き続き不漁です。
 ・その他の魚種では、サワラがまき網による水揚げが大幅に増加し、主要港の合計で283tと近年で最も高い値を示しています。

【底魚類】

・平成20年1～12月の県内主要地区における板曳網(4地区)の総漁獲量は前年比92%、平年比99%、水揚金額では前年比94%、平年比101%となり、前年をやや下回ったものの平年並みとなりました。
 ・また、底曳網(8地区)の総漁獲量は前年比86%、平年比82%、水揚金額では前年比93%、平年比94%となり前年及び平年をやや下回りました。
 ・板曳網の主要魚種であるヒラメ、カレイ類は好漁だった前年をやや下回りましたが、平年並程度の漁獲がありました。
 ・マダラは大豊量だった前年を大きく下回ったものの、平年並み以上の漁獲がありました。
 ・ハタハタは平成18年生まれ(中サイズ)の資源水準が高いものの、本県漁場への来遊が少なく前年及び平年を大きく下回りました(秋田県では豊漁)。
 ・近年、漁獲が安定していたタコ類が、9月以降、不漁となりました。特にミズダコが少なく今後の資源動向が憂慮されます。
 ・その他の主要魚種(全漁法集計)では、アンコウ(前年比101%)、アカムツ(同64%)、シロギス(同94%)、ウスメバル(同71%)、ズワイガニ雄(同115%)でした。